

ロンドン・ブリード市長
サンフランシスコ市議会議員のみなさまへ

私たち日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワークは、日本軍「慰安婦」問題の解決をめざし、2009年から各国の被害女性、国内外の支援団体・個人と連携しながら取り組みを進めています。

私たちは、サンフランシスコ（SF）市と市民のみなさまが、度重なる日本、とりわけ大阪市長からの執拗な政治的圧力に屈することなく、歴史を記憶し、「慰安婦」問題の解決と女性の人権推進を願って「慰安婦」記念碑と像を設置、公有化されたことに深い感銘を受け、敬意を表します。

それに比して、大阪市の橋下前市長、吉村現市長が歴史の事実を直視しようとしないうる態度で、SF市長に繰り返し書簡を送り続けたことに、私たちは大変怒り、抗議の声をあげ続けています。

さらに吉村市長は、今年4月、フィリピン・マニラに建てられた「慰安婦」像が日本政府の圧力を背景に突然撤去されると、ツイッターで「サンフランシスコの碑も日本政府の予算を使って、重機で撤去して」と述べています。日本政府と一体となって、「慰安婦」問題の歴史を否定し、被害者を貶める行為を続ける大阪市長に、日本の市民は憤り、抗議行動を重ねています。大阪市議会も、吉村市長が役員を務める大阪維新の会による「姉妹都市解消決議案」を三度にわたって否決しています。

今年8月、国連人種差別撤廃委員会は日本政府への勧告の中で、「慰安婦」問題も取りあげました。「日韓合意」で、日本軍による女性への人権侵害について日本政府が明白な責任を認めていない、「慰安婦」に関する政府の責任を矮小化する一部の公人の発言と、それがサバイバーに与える否定的な影響を懸念する等と指摘しています。まさに、「日韓合意」で解決したと主張する日本政府や、今年7月、ロンドン・ブリード新市長への公開書簡で、碑の公有化を解消すれば姉妹都市関係を継続してもよいと、吉村大阪市長が更なる圧力をかけていることが、それに当たると言えます。

私たちは今後も、安倍政権や吉村大阪市長の歴史修正主義と闘い、「慰安婦」問題を解決して、女性の人権が尊重される社会の実現に向けて、SF市民のみなさまとの連携を強めていきます。

大阪市とSF市の姉妹都市関係が、市民の声を無視する市長によって一方的に解消されることがあっても、平和と人権促進のために、互いの市民がこれからも手を携えて進みましょう。ロンドン・ブリード市長と市議会のみなさまに、切にお願いいたします。

SF市の、今後のご発展を心よりお祈り申し上げます。

2018年9月21日

日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク
共同代表 西村寿美子 奥田和浩 方清子